スポーツとアートの図書館（筑波大学体育・芸術図書館）

中 村　洋 子（筑波大学附属図書館情報サービス課体芸サービス担当主任専門職員）
田 村 香代子（筑波大学附属図書館情報サービス課体芸サービス担当）

1. はじめに

筑波大学附属図書館は、中央図書館、体育・芸術図書館、医学図書館、図書館情報学図書館、そして東京地区にある大塚図書館の５つの図書館で構成されている。筑波地区の４館は筑波山を背景に南北約４kmに渡る広大な筑波キャンパスの中に分散しており、中央図書館以外の各館はそれぞれの地区におけるサービス拠点であり、特定分野の利用者へのサービスを行う専門図書館としての機能を持っている。

このうち、体育専門学群・芸術専門学群などの体育・芸術系組織の教育と研究を支える図書館が、体育・芸術図書館（以下、体芸図書館）である。「体育と芸術」という組み合わせは全国でも例のないユニークなものといえる。

本稿では体芸図書館の施設や特色ある蔵書、新しく始めた企画展示の取組等について紹介する。

2. 施設・設備

体芸図書館は、筑波大学における最初の図書館として1974年７月に開館し、誰もが資料を自由に手にとって利用できるように全面開架方式を採用した。当時、国内の図書館では導入例のなかったブックディテクション装置を初めて導入したのが体芸図書館である[1)]。

1979年10月に中央図書館が開館するまでの間は暫定の中央図書館として機能していたが、その後は本来の専門図書館として利用されている。

年間入館者数は105,686人、蔵書数は256,413冊である（2014年度末現在）[2)]。主なサービス対象である体育・芸術分野の学生数は、体育専門学群1,038人、芸術専門学群469人、人間総合科学研究科1,026人（体育/芸術関係の専攻）である（2013年５月１日現在）[3)]。

建物は、体育・芸術分野の研究棟や講義棟、体育館や芸術工房などがある南地区に配置され、中央図書館から南に歩いて15分程度の位置にある。４階建ての建物で、学生宿舎と各建物を結ぶペデストリアンデッキに面して、２階が入口となっている（図１）。

図１　緑に囲まれた建物外観

中に入ると正面に見える、４階層を貫く吹き抜けと大きな窓に多くの人が目を惹かれる。両脇に配置された照明とガラス越しに見える緑の木々が安らぎの空間を作り出している（図２）。

図２　光が差し込む吹き抜け空間

吹き抜け・階段を挟んで各フロアの北側は開架書庫ゾーン、南側は閲覧室ゾーンに分かれる。3階に当たる大閲覧室は4階までの吹き抜けで、広々として開放感のある空間となっている。2階には全学計算機システム（筑波大学の共通教育システム）のサテライト室やAVブースなどがある。サテライト室はコンピュータを利用した教育のために大学構内の33箇所に配置されており、その一つである体芸図書館ではパソコンが41台配置され、授業外での学習やレポート作成などに利用されている。また、図書館が管理するパソコンも各所に配置され、学内無線LANの利用環境も整っている。

3. 特色ある資料

3. 1 旧東京体育専門学校蔵書

筑波大学の前身である東京教育大学から承継した蔵書は主に中央図書館に配架されているが、その前身の東京体育専門学校時代の蔵書（和洋合わせて約7,000冊）は体芸図書館に一括して配架されている。「体」の漢字1文字から始まる独自の分類が用いられ、体育に直接関係する資料のみならず、教養教育のための人文・社会・自然科学の図書が幅広く揃っている。日本の体育教育の歴史を感じさせる貴重な資料群である（図3）。

図3　旧東京体育専門学校蔵書

現在の筑波大学の体育系組織は、東京教育大学の体育学部を母体として発展したものである。東京教育大学体育学部は、東京体育専門学校と東京高等師範学校の体育科を包括して作られ、体育学部の敷地と建物は、東京体育専門学校のものがそのまま用いられた[4)]。

東京体育専門学校は、1924年に創立された体育研究所まで遡る。1941年に体育研究所に代わり、東京高等体育学校が発足し、1944年に「東京体育専門学校」と改称された。一方、東京高等師範学校の体育科は、1885年に東京師範学校に附属として併置された体操伝習所まで遡り、我が国の体育の研究･教育機関では最も古い伝統がある[5)]。講道館柔道の創始者である嘉納治五郎は、東京高等師範学校の校長を務めている。

3. 2 東京オリンピック関係資料コレクション

1964年に開催された東京オリンピック関係の資料約300点を、特設コーナーを設けて配架している。東京教育大学の時代に収集されたもので、資料はNDC780.69に分類され、一連番号を振られている。

当時のオリンピック教育を知るための資料としては、オリンピック学習の手引きや小学生・中学生のためのオリンピック読本、教師のための指導資料などがある（図4）。

図4　東京オリンピック関係資料（読本類）

また、日本体育協会がオリンピック後に事業報告として編集した3部作「第18回オリンピック競技大会報告書」「東京オリンピック選手強化対策本部報告書」「東京オリンピックスポーツ科学研究報告」のほか、東京オリンピック東京大会組織委員会や各新聞社の出版物、競技別プログラム、週刊誌の別冊や臨時増刊号、特集号までも収集している。

実際に会場で使用されたと思われる入場券や各種ガイド類、外国人向け案内図などは、当時のデ

ザイナー達のデザインワークを知る上で、体育分野だけでなく芸術分野の学生にも役立つ資料である（図５）。資料活用の意外な例としては、高齢者が思い出を想起する手助けとして、オリンピックの写真集が認知症の研究者から関心を寄せられたことがある。

図５　東京オリンピック関係資料
（ガイドやチケット類）

3. 3 展覧会目録（カタログ）・ポスター

芸術分野で重点的に収集している資料が、美術館や博物館で開催される展覧会の目録である。

1985年頃から各美術館に寄贈依頼を行い、積極的に収集していく体制をとった[6)]。現在は、約10,000冊のコレクションを大閲覧室の壁際に配架している（図６）。

図６　大閲覧室の展覧会目録

また、展覧会のポスターも収集しており、現在では7,000枚を超えている。地域住民からなる附属図書館ボランティアの活動の一環としてポスターデータベースを構築し、公開している。

4. オリエンテーション・講習会

筑波大学の各学群の新入生に対する図書館オリエンテーションは、フレッシュマンセミナーという必修科目に組み込まれている。体芸図書館では体育専門学群・芸術専門学群の新入生に対して図書館職員がクラスごとに図書館Webサイトの見方などを説明し、館内見学ツアーを行っている。文献の探し方については、春と秋に講習会を開催しており、体芸図書館では体育分野のデータベース「SPORTDiscus with Full Text」の使い方を説明している。もちろん他の４つの図書館でも様々な講習会を企画しており、学生はどの図書館の講習会にも自由に参加することができる。

以上の説明会・講習会の内容は、新システム（ディスカバリーサービスなど）の導入、剽窃問題への言及など、絶えず更新を続けてきている。今後も学生の学習や情報探索行動の動向を注視しながら、伝統的な「図書館の使い方」にとどまらない要素を積極的に盛り込み、教員による授業と補い合えるような講習会を目指したいと考えている。

5. 相互利用サービス

体芸図書館のレファレンスデスクでは、文献入手のための相互利用関連の相談依頼が多く、相互利用サービスは最も重要なサービスの一つとなっている。

教職員や学生は図書館に足を運ばなくても、Webサービスを利用すれば研究室や自宅のパソコンから複写や現物貸借を依頼できる。図書館のWebサイト上で、ディスカバリーサービスや蔵書検索OPACや電子ジャーナルリストを使って所蔵・購読の有無を調べ、図書館に無ければ各種データベースの書誌情報ページからILL（図書館間相互貸借）を申し込むことができる。このWebサービスの利用率は高く、特に複写依頼においては体芸図書館の全申込件数の８割以上を占める[7)]。

6. SNSによる広報

筑波大学附属図書館ではTwitterとFacebookに公式アカウントを開設しており、体芸図書館からも情報発信を行っている[8)]。

Twitterアカウントは2011年３月の東日本大震災を機に、Facebookアカウントは2013年10月１日の筑波大学開学40周年記念日にそれぞれ開設され、現在に至るまでコンスタントに活用されている。Twitter、Facebookとも2014年に運用ポリシーを策定した[9)]。

Facebookにはある程度まとまった分量の情報を投稿するが、写真や画像をできるだけ掲載して見やすい画面作りを心がけている。一方Twitterは短文やリアルタイム性が特徴のメディアなので、イベント開催予告や図書館からのメッセージ等をシンプルに書き込む。

真面目な告知だけでなく時にはホットな話題に関連させるなどした比較的やわらかな内容も投稿して、まずは図書館に親しみを持ってもらうことを目指している（図７）。

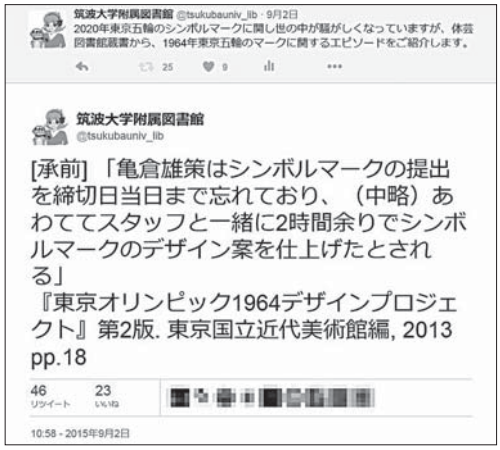

図７　Twitter投稿の例

7. 展示

7. 1 テーマを決めた図書の展示

入館ゲートを通ってすぐの場所に図書の展示コーナーを設け、定期的にテーマを決めて蔵書の紹介をしている。

2014年度には「1964年東京オリンピックから50年」と題し、コレクションを含めたオリンピック関連図書の展示（図８）や、FIFAワールドカップに合わせたサッカー関連図書の展示などを行った。

2015年度には「アスリートの横顔」と題し、筑波大学の卒業生を含むスポーツ選手らの伝記、手記などを展示した。また、研究倫理に関する図書を集め、筑波大学附属図書館全館挙げての「研究不正防止キャンペーン」の展示も行った。

図８　オリンピック関連図書の展示

その他、例えば年度初めには新入生向けに一人暮らしの食生活やパソコンスキルに関する図書を、夏季休業前にはアウトドア、世界遺産や美術館・建築物めぐりといった図書を展示するなど、時節に合わせて定期的にアレンジをしている。立ち止まって図書を手に取る利用者は多く、貸出も多い。入口付近での展示は忙しい教員にも好評である。

7. 2 企画展示　―図書館外との連携

2014年度にメインカウンター前に展示スペースを設け、教員や学生に芸術分野ならではの「成果発表の場」を提供するという新しい試みを始めた。設備としては、ポスターの掲示板として使用していたパネルをギャラリー風に複数枚設置し、小テーブルや案内板も既存のものを利用した。企画のたびに、職員が蔵書の中からそれぞれのテーマに合った図書を選んで貸出可能な関連図書コーナーを作っている。

教員や学生への声掛けから始め、最初の企画として芸術系研究員による筑波大学附属病院でのアート活動を紹介する展示「『ゴブリン博士の病院ゴブリン』アーカイブ展」を開催することができた（図９）。病院内の様々な物を擬人化して小さな人形（ゴブリン）を創作するプロジェクトで、作品の写真や、マスキングテープを使い来場者の目の前で製作されたゴブリン達の壁画が多くの来館者

の目を楽しませてくれた。

図９　「ゴブリン博士の病院ゴブリン」アーカイブ展
（助成：文化庁　大学を活用した文化芸術推進事業）

以来、芸術支援研究室による「ピリヴィ写真展―知られざる19世紀フランス洋食器の美」「岡田信一郎の夢―東京府美術館と法隆寺展」（図10）「《神奈川沖浪裏》の謎―波の伊八と葛飾北斎とゴッホ―」、また芸術専門学群の学生による写真展や書展など、芸術分野の展示を定期的に行ってきた。

図10　「岡田信一郎の夢-東京府美術館と法隆寺展」
（助成：文化庁 大学を活用した文化芸術推進事業）

体育分野では2015年度に初めて、体育系教員と日本アンチ・ドーピング機構（JADA）による「アンチ・ドーピング啓発活動」の企画を実施した。

筑波大学は、2013年11月にJADAとの間に連携及び協力に関する協定を締結し[10]、2014年度からは「2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会」に向けて21世紀の国際スポーツ界を担う人材を養成するために「つくば国際スポーツアカデミー」（Tsukuba International Academy for Sport Studies、TIAS）を開設した[11]。これは2013年９月のIOC総会で発表された、スポーツ分野における我が国政府の国際貢献策「Sport for Tomorrow（SFT）」プログラムの内容に基づくものである。SFTは、2014年から2020年までの７年間で100カ国以上の国において1000万人以上を対象にスポーツの価値とオリンピック・パラリンピック・ムーブメントを広げていく取組みであり、このプログラムの柱の１つとして「国際的なアンチ・ドーピング推進体制の強化支援」が挙げられている[12]。「Anti-Doping」はTIAS修士プログラムの授業科目となっている。

これを受け、体芸図書館においてもドーピング防止啓発活動に協力すべく展示を行った。展示エリアには啓発ポスターや横断幕などを掲示し、配布物として各種パンフレットや小冊子を置いて、映像資料も視聴できるようにした（図11）。また、図書館の利用者を対象に、６ヶ月間ドーピングに関する意識調査アンケートも行った。

図11　アンチ・ドーピング啓発活動

8. おわりに

筑波大学は、現在日本初となるIOC認可のオリンピック研究センターとして、附属学校とも連携しつつオリンピック教育の研究と実践を進めている[13]。今後は、体芸図書館に用意されたスポーツ・オリンピック関係の様々なツール（図書・雑誌・電子リソース）を利用してグループで自由に討論しながら学習ができる環境を整備し、2020年東京オリンピックという大きなイベントに向けて、図書館を活用した研究・教育を推進することで、大学の活動をサポートしていきたいと考えている。

そして企画展示についても、芸術系・体育系教職員との連携をより密にし、多様な展示に対応できる環境づくりに力を入れていく予定である。

（なかむら　ようこ）
（たむら　かよこ）

注

１）筑波大学中央図書館十周年事業計画委員会年

史編纂部会編. 筑波大学図書館史. 筑波大学附属図書館, 1989, p.237-240.
2）平成26年度筑波大学附属図書館業務統計. 筑波大学附属図書館, 2015, p.1-7. https://www.tulips.tsukuba.ac.jp/lib/sites/default/files/attach/statistics-2014rev.pdf（参照 2016-1-5）.
3）平成25年度筑波大学概要資料編. 筑波大学, [2013], p.18-22. http://www.tsukuba.ac.jp/public/booklets/details.html（参照 2016-1-5）.
4）“VIII. 東京教育大学体育学部”. 筑波大学体育系25周年記念誌. 筑波大学体育科学系, 2000, p8.
5）“1）筑波大学と体育の沿革”. 筑波大学の体育-教育と研究-. 筑波大学体育科学系［編］. 筑波大学体育科学系, 1986, p.1-2.
6）筑波大学中央図書館十周年事業計画委員会年史編纂部会編. 筑波大学図書館史, 筑波大学附属図書館, 1989, p.187-188.
7）平成26年度筑波大学附属図書館業務統計. 筑波大学附属図書館, 2015, p.22. https://www.tulips.tsukuba.ac.jp/lib/sites/default/files/attach/statistics-2014rev.pdf（参照 2016-1-5）.
8）Twitter https://twitter.com/tsukubauniv_lib Facebook https://www.facebook.com/tsukubauniv.lib
9）http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/lib/ja/about/SNS（参照 2015-12-22）.
10）筑波大学. "国立大学法人筑波大学と公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構との連携及び協力に関する協定締結について". お知らせ・情報. http://www.tsukuba.ac.jp/wp-content/uploads/p201311291400JADA.pdf（参照 2015-12-28）.
11）筑波大学. "筑波大学・AISTS連携協定調印式及び国際スポーツアカデミーシンポジウム". お知らせ・情報. https://www.tsukuba.ac.jp/event/e201407161030.html（参照 2015-12-28）.
12）外務省. “「Sport for Tomorrow（SFT）」プログラム概要（主な実施例含む）”. 広報文化外交. http://www.mofa.go.jp/mofaj/p_pd/ep/page22_001221.html（参照 2016-1-4）.
13）筑波大学. "About CORE". オリンピック教育プラットフォーム（Centre for Olympic Research and Education）. http://core.taiiku.tsukuba.ac.jp/about（参照 2015-12-28）.

スポーツとアートの図書館（筑波大学体育・芸術図書館）

中村　洋子（筑波大学附属図書館情報サービス課体芸サービス担当主任専門職員）
田村　香代子（筑波大学附属図書館情報サービス課体芸サービス担当）

体育・芸術図書館の特色ある蔵書としては、前身校の東京教育大学で所蔵していた旧東京体育専門学校の蔵書、1964年に開催された東京オリンピック関係資料コレクション、美術館や博物館の展覧会目録などがある。2014年度から館内に展示スペースを設け、教員や学生に成果発表の場を提供するという新しい試みを始めた。これまでに附属病院でのアート活動を紹介する「『ゴブリン博士の病院ゴブリン』アーカイブ展」や芸術支援研究室による「岡田信一郎の夢-東京府美術館と法隆寺展」、体育系教員と日本アンチ・ドーピング機構による「アンチ・ドーピング啓発活動」などを開催した。筑波大学は、現在日本初となるIOC認可のオリンピック研究センターとしてオリンピック教育の研究と実践を進めており、体芸図書館としてもこれをサポートすべく、図書館を活用した研究・教育を推進していきたいと考えている。